

インフルエンザ情報

国立感染症研究所感染症情報センター（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）は、「インフルエンザ流行マップ第51週（12月17日～12月23日）平成24年12月26日現在」を平成24年12月28日に公表した。

（コメント）

2012/2013年シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は2012年第43週以降増加が続いている。第51週の定点当たり報告数は2.23（患者報告数10,977）となり、前週の定点当たり報告数（1.17）の2倍近い増加となった。都道府県別では群馬県（13.07）、佐賀県（8.63）、埼玉県（5.81）、沖縄県（5.69）、栃木県（5.41）、山梨県（4.50）、千葉県（3.91）の順となっており、滋賀県、山口県を除く45都道府県で増加がみられた。

警報レベルを超えた保健所地域は1箇所（群馬県）、注意報レベルのみを超えた保健所地域は17箇所（群馬県5、埼玉県2、佐賀県2、岩手県1、東京都1、広島県1、高知県1、福岡県1、長崎県1、大分県1、宮崎県1）となった。

2012年第36以降これまでの国内のインフルエンザウイルスの検出状況を見ると、AH3亜型（A香港型）の割合が最も多く検出されている。詳細は感染症情報センターホームページ（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#graph>）を参照されたい。

なお、第47週～第51週までの都道府県別の定点当たり報告数の推移【感染症情報センター発表の「感染症発生動向調査週報」等を基に機構で作成】

※定点とは、発生動向調査の観測用に使われた医療機関のことで、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されています。

